

〔発表要旨〕

般若経における衆生
—注釈文献による理解を手がかりとして—

立正大学 庄司史生

本研究では般若経の経文と注釈文献による釈文を手がかりとして、「菩薩」(bodhisattva)と「摩訶薩」(mahāsattva)の語との関連から、般若経における「衆生」(sattva)について考察する。

具体的には『八千頌般若波羅蜜多』(*Aṣṭasāhasrikāprajñāpāramitā*: 八千頌般若)の経文を取り上げ、同経典に対してインド仏教最後期の12世紀にジャガッダラニヴァーシン(*Jagaddalanivāsin)によって著されたと記される『世尊母の伝承に随順したものという解説』(**Bhagavatyāmnāyānusāriṇī-nāma-vyākhyā*: 世尊母伝承随順)による釈文に着目し、必要に応じて『二万五千頌般若波羅蜜多』(*Pañcaviṃśatisāhasrikāprajñāpāramitā*: 二万五千頌般若)の経文、また『世尊母伝承随順』に先行する著者不明の『聖十万頌・二万五千頌・一万八千頌般若波羅蜜多の広注』(**Āryaśatasāhasrikāpañcaviṃśatisāhasrikaṣṭādaśasāhasrikāprajñāpāramitā-brhṭṭikā*: 三母広注)による釈文を参照する。

なお、従来の研究により、『八千頌般若』にみられる「衆生」「菩薩」「摩訶薩」に関する経文として以下の経文(第1章)の存在が指摘されている。改めて示すと次の通りである。

- ・菩提を目的とするから、〔彼は〕「菩薩摩訶薩」といわれる。
- ・衆生の衆(sattva-rāṣi)、衆生の集まり(sattva-nikāya)の最高のものとなるであろう。そのような意味で〔彼は〕「菩薩摩訶薩」といわれる。
- ・このような〔誤った〕見解を断つために教えを説くであろう。そのような意味で〔彼は〕「菩薩摩訶薩」といわれる。
- ・そこで、〔一切智性の〕心にさえも執著せず、とらわれない。そのような意味で〔彼は〕「菩薩摩訶薩」と呼ばれる。
- ・彼は偉大な鎧を身に着けた衆生である。また彼は大乘に発趣し、大乘に乗った衆生である。そういうわけで、彼は「摩訶薩」「摩訶薩」と呼ばれる。

以上の経文に関して、従来の研究では『八千頌般若』の他、『二万五千頌般若』の経文、そしてアビサマヤ系般若経注釈文献のうち、特に9世紀頃のハリバドラ(Haribhadra)の著作等による釈文の記述が取り上げられている。

本発表では、般若経における衆生について考察するにあたり、非アビサマヤ系般若経注釈文献である『世尊母伝承随順』および『三母広注』の釈文にみられる「菩薩の四相」と「摩訶薩の四相」説に着目し、その注釈内容を提示することとしたい。

キーワード：衆生，菩薩，摩訶薩

〔本文 855 文字〕